平成２７年度事業報告書

社会福祉法人　南陽恵和会

目　　次

社会福祉法人南陽恵和会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

特別養護老人ホームこぶし荘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

こぶし荘デイサービスセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

こぶし荘在宅介護支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家・・・・・・・・２８

社会福祉法人　南陽恵和会

特別養護老人ホームこぶし荘

１　総　　括

１．基本方針と目標

老人福祉法及び介護保険法の理念と法人の事業目的に基づき、健全で快適な生活環境を創造しながら、高齢者福祉の増進に寄与するための努力を行った。

介護の基本は、「入居者の生きがいある生活、健全で安らかな心身の健康」を目指した。改正介護保険法の施行に伴う介護と経営の安定に向けた努力を図り、介護老人福祉施設としての役割と目標達成に向けた努力を行った。

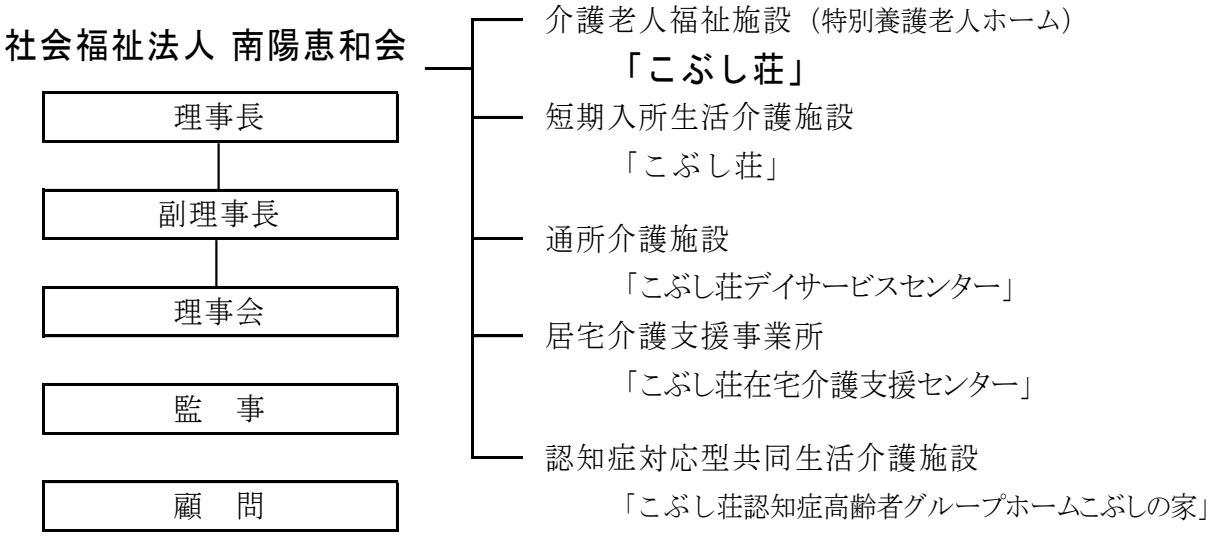
２．運営方針の実践

多様な福祉サービスの実践施設として、市民各位の期待の大きい老人ホームの理念と目標の実現を図り、直接処遇の専門性、技術性の確立を目指した。

そして介護の充実のため職員の相互協力を図り、入居者の人間性豊かな生活を確保し、さらに入居者処遇の実践を通して地域との交流を推進した。各部門においては指定介護保険施設の指定を受け、介護保険業務の実践及び改正に向け努力を進めた。

３．組織および職員

（１）組　織



（２）職員の現状について　　（平成２８年３月３１日現在）

職　名	定員	現員	採用	退職	職　名	定員	現員	採用	退職
施　設　長	1〔1〕	1			管理栄養士	1〔1〕	2		
副施設長	1〔1〕	0			調　理　員	6〔4〕	7（3）	1（1）	2（2）
事　務　員	2〔1〕	2			業　務　員	1〔0〕	5（4）	1（1）	
生活相談員	2〔1〕	1			洗　濯　員	3〔0〕	5（5）	1（1）	1（1）
介護支援専門員	1（兼務）	有資格者計９			夜　警　員	3〔0〕	4（4）	1（1）	
介護職員	29〔18〕	37（17）	4（4）	2（1）	医師（嘱託）	2〔2〕	2（2）		
看護職員	3〔3〕	5（1）	1						
機能訓練指導員	1	1			計	56〔32〕	72（36）	9（8）	5（4）

☆現員＝年度末（産休等代替含む）　（　）内は嘱託・臨時で再掲

☆定員は指定基準を踏まえた定員数　〔　〕内は配置基準定数　☆採用・退職には異動含む

４．会　　議

（１）理　事　会　　定例理事会４回のほか、臨時理事会３回、計７回開催した。

（２）監　事　会　　監事会１回開催～事業、会計監査

（３）施設運営会議

各部門の係長以上で構成、管理運営面の周知を図るほか、各部門の問題や入居者の処遇充実について検討するため毎月１回のほか、臨時に開催した。

（４）職員全体会議

事業計画の周知と共通理解を図るため、全体会として開催した。

（５）リスク対策委員会　　９ページ参照

利用者サービスの質の向上とリスク軽減を目的に各専門委員会を開催した。

①入所選定委員会
②身体拘束廃止委員会
③事故発生防止委員会
④看取り介護委員会
⑤感染症・食中毒予防まん延防止対策委員会
⑥グループホーム重度化対応委員会
⑦褥瘡発生防止委員会
⑧安全衛生委員会
⑨給食委員会
⑩広報委員会
⑪防災対策委員会
⑫研修・地域連携委員会
⑬リハビリ委員会
⑭ショートステイ委員会
⑮看護介護協働委員会

（6）カンファレンス

ケアプランについて６ヶ月ごとに入居者の処遇内容の検討を行い、個別サービスの確立を目指し、説明・同意に努めた。

（7）処遇係会議

①行事実行係　②クラブ活動係　③排泄ケア係　④給食ケア係　⑤入浴ケア係
⑥リハビリ係

介護職員を中心に「係り」に分け看護師、調理部門と連携又は参加し、日常生活の処遇改善のための検討と実践に努めた。また、行事、入居者の処遇方針の検討、確定のほか、入居者の個人理解のためのケース会議、介護職員会議を適宜開催した。

（8）福利厚生委員　　職員の福利厚生「こぶし会」運営等行った。

５．管理関係

（1）監　査

１．社会福祉法人　一般指導監査（南陽市）　～平成２８年１月２２日
　是正改善指導は、特になし

２．介護保険施設等実地指導（南陽市）　～平成２８年１月２２日
　対象：こぶし荘認知症高齢者グループホーム
　是正改善指導は、特になし

３．介護保険施設等集団指導
　施設介護系（特養・ＳＳ）～平成２７年７月７日　置賜文化ホール
　居宅介護系（ＤＳ・支援）～　同　上
《指導要点》　・法令遵守について
　・平成２７年度の介護保険施設等に対する指導・監査について
　・事故報告及びインフルエンザ等への対応
　・基準・報酬の取扱いについて　　等

４．監事監査　業務、会計監査　平成２７年５月１５日　吉田監事　渡部監事

５．その他　介護サービス情報公表報告
　平成２８年２月　　特定非営利活動法人エール・フォーユー

（2）管　理

１．処遇改善手当として介護職員及び一般職員の処遇改善を図った。

２．介護福祉士資格取得
　平成２７年度「介護福祉士」資格取得者３名　　合計３８名（８０．９％）

３．介護認定審査　　審査委員として南陽市長の委嘱により参加
　濱田施設長、小林主任生活相談員

４．諸規則の整理
・定款施行細則、就業規則、給与規程、慶弔基準、入所契約書、重要事項説明書変更等
・正規職員登用基準の整備（H28.4.1 施行）
・マイナンバー法施行による「特定個人情報規程」の整備

（３）産業医と衛生管理

労働安全衛生法第１３条及び同規則の規程に則り、労働安全衛生及び労働環境改善の指導を受けるため産業医を委任した。

また、同じく労働安全衛生法第１２条及び同規則の規程により衛生管理者３名を配置、「衛生委員会」を「安全衛生委員会」とし従業員の衛生管理の充実を図った。

◇ 産　業　医　　大塚聡医師

◇ 衛生管理者　　濱田施設長、鈴木事務人事係長、飯塚看護師

◇ 安全衛生委員会　　月１回開催　産業医、施設長、衛生管理者（２名）、業務係長

（４）職員の健康管理

１．職員の健康診断

今年度より、健康診断の対象者及び項目を産業医の指導の下再検討を行い実施した。また、生活習慣病改善に向けて専門保健師等による個別相談の受診を奨励しながら職員の健康管理を行った。

◇ 春季健康診断　６月２日　　対象者：夜勤職員及びパート職員　　受診者４２名

◇ 秋季健康診断　１１月～１月　　対象者：全職員（健康保険未加入者除く）
受診者６９名

◇ インフルエンザワクチン接種　１１月　　接種者　７４名

２．腰痛検査

腰痛アンケートを実施した結果、介護職員のほとんどが腰痛を抱えていたことを踏まえ個人に適したより予防効果のある腰痛保護ベルトの支給を行った。合わせて、作業前に出来る簡単な腰痛体操も紹介しながら腰痛予防に努めた。

３．労働環境改善

各事業所内の安全点検を実施し、危険箇所の洗い出しを行いすぐに改善できるものから実施し、さらに今後の改善に向けた検討を行った。

４．ストレスチェック

労働安全衛生法の改正によりストレスチェックの実施が義務化されたことに伴い、「ストレスチェック制度実施規程」を作成し、実施者・面接指導者に大塚産業医、実施事務従事者に飯塚看護師（衛生管理者）と定め来年度実施に向けての準備を行った。

（５）敷地・建物管理、機器備品の整備

１．管理関係

①ファックス付コピー機の新規入替整備

②ケアワーカー室パソコン及び専用テーブル整備

③洋式トイレ改修工事（２カ所）

２．介護機器等の整備

①低床電動ベッド及び関連用品の追加整備

②食事用テーブル、オーバーテーブル、車いす等の追加整備

③特殊浴槽、チェアー浴槽、自力浴槽、ストレッチャー類の点検・補修
④その他介護用品の補修　電動ベッド、車椅子等

３．厨房機器の整備
①食器消毒保管庫の新規入替整備
②フードプロセッサー、食器・調理器具類の購入及び補修

４．医療機器の整備
①医療用機器の点検・整備

５．その他の主な管理整備関係
①正面ロータリー付近花壇整備　花物・美化　～いちょうの家
②外周管理　　ＤＳＣ法面の調査、管理
居室南側避難所（芝生）管理～除草、施肥、芝刈り等
法面草刈り・除草作業（５～９月）、水路管理
避難誘導路の除雪及び維持管理、案内看板の補修
③建物管理　　ボイラー煙突開口部枠の修理、ピット内排水ポンプ修理交換
④温水発生器（ボイラー）及び給湯・温水配管類の保守管理
「車両競技公益資金記念財団」平成１７年度助成事業機器の保守管理
ばい煙測定の実施　　床下配管の定期点検
二次温水ポンプ及び配管継手部の修理
⑤合併処理槽の保守管理　～定期点検、定期清掃、法定・水質検査
水利組合代表者立会いによるこぶし荘敷地外の汚水配管状況及び埋設ルートの確認（説明により大筋で納得）
⑥受水槽の保守管理　～定期点検、定期清掃、法定・水質検査
⑦非常発電機メンテナンス整備　～定期点検
屋内消火栓設備廃止に伴う非常発電機の撤去
⑧地下油槽保守管理　～消防法改定に伴い年１回漏洩検査を実施
３年に１度の油槽清掃を実施
⑨暖房・湿度管理　　居室の温度管理と湿度調整
エアコン室内機の修理、加湿器の設置及び弱酸性次亜塩素酸水の活用
⑩電気設備定期点検　毎月１回定期点検、年１回総合点検　　省エネ診断を実施
⑪国県補助事業整備“１９９８”業務用洗濯機、乾燥機、汚物除去機の保守管理
汚物除去機（洗濯室）の新規入替整備及び移設、乾燥機モーター交換等
⑫屋上ヒーター保守管理
⑬水道関係保守管理　　北山道路市水道工事による断水対応
⑭自動ドア保守管理　　年２回の保守点検
⑮レジオネラ菌検査　～浴槽の入浴前の湯を採取（異常なし）
⑯床洗浄・ワックス作業及び清掃員による荘内清掃
⑰“２００３”及び“２００６”「日本財団」福祉車両助成事業リフトバス２台、平成１８年度「２４時間テレビ」寄贈車リフトバス、平成１９年度日本自転車振興会補助車両リフトバス、平成２５年度中央競馬馬主社会福祉財団助成車両スロープ付軽自動車等公用車の積極的な活用及び管理、リフト部の修理

⑱“２００１”国県補助事業「中間浴槽（ＯＧ技研）」の保守管理

⑲平成１７年度郵政公社年賀寄附金配分を受け整備した「殺菌ろ過装置付特殊機械浴槽、ストレッチャー、フロー担架」の保守管理

（６）広報紙「こぶし」の発行　　広報紙　第５１号　発行

６．非常災害対策

（１）こぶし荘防災対策委員会の設立

平成２７年度より平常時の防災対策を推進するため、こぶし荘防災対策委員会を設立した。メンバーは防災協力会事務局員（各係長）を中心に構成し、委員長に施設長、副委員長を防火管理者として、２ヶ月に１回開催し、主に防災訓練の内容の協議を行った。

（２）屋内消火栓設備の廃止

こぶし荘設立当初から設置した屋内消火栓の設備が経年劣化により老朽化が進んだことや、平成２２年にスプリンクラー設備が完備されたことにより、置賜広域行政事務組合消防本部の指導に基づき廃止及び設備の撤去を行った。

（３）福祉避難所の締結及び緊急避難道路整備計画の推進

災害が発生し小学校等の避難所での生活が困難で福祉避難所の開設が必要と判断された場合、南陽市より開設の要請があり可能な範囲で要援護者を受け入れる「福祉避難所」の協定を南陽市とこぶし荘を含む市内の老人福祉施設４施設が締結した。

（４）平常時の対策

防火管理並びに消防防災計画に基づき、こぶし荘防災対策委員会で協議し防災関係機関との連携を図りながら非常災害対策訓練を行った。また、今年度初の火災図上訓練を実施し、火災発生時の初動をグループで討議した。

１．防　火　管　理　者	鈴木業務係長
２．消防防災設備定期点検	９月１５日、３月１６日
３．消防防災関係諸届出	消防防災計画変更４月、消防防災設備点検結果９月分
４．非常災害対策訓練	総合防災訓練２回　春季５月３０日　秋季１０月２８日
５．夜間防火管理体制検証	夜間防火管理マニュアルによる訓練として春季に実施 夜間通報訓練～１２月１８日一斉メール、電話で実施
６．こぶし荘防災協力会	地元地区役員、各種団体役員によるこぶし荘の災害援助協力体制と防災訓練の協力をいただいた ５月３０日に総会を実施
７．地区消防防災事業参加	各種団体説明会・懇親会　４月２６日、１１月２９日 南陽市消防団第八分団第１部演習　６月２１日 中川小学校防災訓練、講話　９月１８日
８．消防設備等保守管理	排煙用窓ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ部修理、市防災行政無線受信機設置
９．地震・土砂災害の予防	総合防災訓練で実施
10．関係機関立入検査	危険物施設及び消防設備の立入検査～今年度なし
11．消防防災関係講習	危険物取扱保安講習　～該当なし

高齢者福祉施設防火講習会　～５月１６日

12. ホットライン協力者　松田 孝氏、斎藤 進氏

13. 南陽市危険物安全協会　市の危険物安全と普及広報活動

14. 南陽市総合防災訓練　１０月１８日　危険物漏洩処置訓練（不参加）

15. 置賜地区防災ネットワーク事業　７月２９日担当者会議、９月１日防災訓練実施　～被災想定施設に支援物資を運搬

７．職員の資質向上《研修・指導・会議》

《職場内研修》

研　修　名	月　日	講　師　名	参加者	主な研修カリキュラム
職員全体会議	５／２８	施設長	全職員	事業計画、他
ｹｱﾜｰｶｰ全体会議	６／１１	施設長、ｹｱﾜｰｶｰ	ｹｱﾜｰｶｰ	活動計画、研修報告
職場内研修会	救急蘇生法、ｷｬﾘｱ形成、ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝｱｯﾌﾟとｽﾄﾚｽ軽減、感染症対策、規定改定・ﾏｲﾅﾝﾊﾞｰ			
ほか研修会報告など部署ごとに適宜実施				

◎社会的問題の指導　例年のとおり他施設や介護事業者関連問題の報道、インフルエンザ、ノロウイルス等の報道また県指導等の都度、事故防止、衛生・健康・自己管理対応をミーティング、施設運営会議等で指導徹底を図った。

《外部研修・会議》

職　名	主　な　研　修　会　等	会議数	人数
施　設　長	県老施協総会、老施協施設長研修会、特養部施設長協議会、置賜地区施設長協議会、市危安協関係、市包括支援センター運営協議会、県集団指導、介護労働者の労働時間管理、認知症開設者研修、老副連職員研究交流集会、県社会福祉振興会総会、介護認定審査員研修会、他研修会・地区関係等	15	15
事　務　員	県集団指導、経営力改善セミナー、労務管理セミナー、地域密着型研修会、精神保健関係セミナー、県社会福祉振興会総会、全国老施協山形県大会、マイナンバーセミナー・研修会	8	10
看　護　師	特養部前期･後期看護研究会、特養部機能訓練指導員研究会、吸引等研修会、褥瘡予防研修会、糖尿病研修会、救急処置講習会、認知症疾患研修会、全国老施協山形大会、介護施設等における看取り研修会、山形県看護実務者研修会、医療依存度の高い方の研修会、老福連職員研究交流集会、結核対策研修会、山形産業保健セミナー、精神保健関係者研修会	20	21
生活相談員	特養部生活相談員研究会、多職種合同研究会、置賜地区生活相談員研修会、国勢調査員打ち合わせ説明会、介護認定審査員研修会、高齢者虐待防止研修	7	7
介護職員	特養部前期・後期介護職員研修、特養部主任介護職員研修、介護支援専門員研修、高齢者介護関係研修、文教大連絡協議会、置賜地区主任介護職員研修、、認知症ケア関係、吸引等研修会、褥瘡予防ケア研修会、レクリエーション実践セミナー、介護職員初任者研修、全国老施協山形大会、老福連職員研究交流集会、救急処置講習会、介護記録研修会、排泄ケア研修、多職種合同研究会	21	21
管理栄養士	特養部栄養士研修会、特養部栄養士・調理員研修会、栄養・食生活関連事業研修会	3	4
調　理　師	特養部栄養士・調理員研修会、全国老施協山形県大会	2	2
業　務　員	安全運転管理者講習、置賜地区防災ネットワーク担当者会議、消防・地区関係、高齢者福祉施設防火講習会	5	5

８．地域社会との連携、交流

（１）毎月の誕生会、敬老会、七夕、夏祭りなどの荘内行事への家族の参加、地域市民の交流などを実施した。

（２）介護実習、体験学習、ボランティア

「介護実習」　　明徳福祉専門学校　１名

「福祉施設体験」　今年度なし

「ボランティア」　南陽東ＲＡＣ（夏祭り）　５名

南陽高校ＩＡＣ（夏祭り）　１２名

中川小学校・赤湯中学校中川地区生徒（窓清掃）　２０名

（３）市民や各種団体、小・中学校の児童生徒、ボランティアやボランティア友の会、南陽東ローターアクトクラブ、南陽高校インターアクトクラブのボランティア、また歌・カラオケ、日本舞踊、児童館園児の遊戯などの多くの慰問をいただき、入居者と市民との積極的交流を行った。

（４）地域の諸行事 … 南陽市消防団第八分団顔合わせ、懇親会、春の消防演習、諏訪神社安全・五穀豊穣祈願祭・例大祭、子供神輿、岩部三十三観音さくらを見る会、いわぶの里夏祭り、北山地区各行事、懇親会、文化祭、小学校・児童館、中川地区敬老会、中川公民館などの各種行事に参加し、北山共同テレビ受信組合など地域の方々との交流を行った。また、新春なんよう、南陽市総合防災訓練、南陽市社会福祉協議会中川支部等に出席、参加した。

（５）こぶし荘夏祭りを行い地域の市民、ボランティアの皆さんと交流できた。また、南陽やすらぎ荘盆踊り・敬老会等に参加し交流を行った。

（６）中川地区花いっぱい運動に研修・地域連携委員を中心に参加し、花植え、除草作業等のボランティアを行った。

２　入居者の処遇

１．こぶし荘入居者の状況

（１）入居者の状況

１．日常介護の目標

①安全で明るい入所者生活の確保と危険防止を図った

②嘱託医大塚先生の指導のもと健康で衛生的な医療と看護強化を図った

③精神科嘱託医佐藤先生の指導のもと認知症老人の介護と処遇の向上を目指した

２．入所者の状況（市町村別）

平成 28 年 3 月 31 日現在

区分	南陽市	山形市	長井市	川西町	合　計
男	21	1			22
女	55		1	2	58
計	76（95%）	1（1.25%）	1（1.25%）	2（2.5%）	80

☆ 年間の行事・行事食は資料（１）のとおり

☆ 日常生活（日課・週課）は資料（２）（３）のとおり

３．新規入所者の状況　　男７人　女 12 人　計 19 人（南陽市 15 名）

４．入居者の平均年齢　（平成 28 年 3 月 31 日現在）

性別	入居者総数	年齢階層	平均年齢
男	22 人	65～94 歳	82.5 歳
女	58 人	64～99 歳	88 歳
計	80 人	（全体）64～99 歳	85.25 歳

５．入居者の要介護度別利用状況

月 介護度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	延べ人数 （割合%）
要介護 1	90	93	90	70	92	90	93	90	93	93	58	62	1,014	34（3.5）
要介護 2	90	93	90	124	93	90	93	90	93	93	116	124	1,189	39（4.0）
要介護 3	573	613	602	651	662	600	613	600	642	606	493	534	7,189	241(25.0)
要介護 4	713	694	660	662	713	761	797	792	810	867	870	879	9,218	316(32.0)
要介護 5	825	893	890	943	897	810	853	815	806	767	762	868	10,129	346(35.5)
合　計	2,291	2,386	2,332	2,450	2,457	2,351	2,449	2,387	2,444	2、426	2,299	2,467	28,739	976
平均介護度 3.91　　※ 全国平均介護度（全老施協）4.0														

６．入居者の日常生活の状況　（平成 28 年 3 月 31 日現在）

区分	歩　行				食事			入浴		排泄	
	自立歩行	歩行介助	車いす使用	ベッド生活	自力摂取	一部介助	全部介助	自力浴	機械浴	自立・一部介助	オムツ使用者
実数	1	5	55	19	15	36	29	4	76	5	75

７．認知症高齢者の状況

男　22 人中 21 人（95%）
女　58 人中 56 人（96.0%）
} 認知症日常生活自立度（Ⅲ以上）

８．歌と両上肢挙上運動（昼食前）の継続実施

１．目　的　　風邪や肺炎等への予防対策として、入居者の自主的な行動と精神面での健康管理、食事状況を見て食欲の変化を見る。

２．方　法　　例年“今月の歌”を昼食前、歌と両手を上げ、深呼吸を行う。

９．リスク対策各委員会の取り組み

各委員会の指針・マニュアル・計画の作成、委員会の開催、記録等の対応。現状の把握、改善の方法、実現に向けた職員指導と研修、個別検討、ハード面の検討、記録・報告、説明と同意

《内　容》定期開催、また随時検討を行い、緊急・随時に必要な対応を図った
《研　修》内部・外部研修　各種セミナー参加　通知等含め全施設周知

①入所選定委員会
②身体拘束廃止委員会
③事故発生防止委員会
④看取り介護委員会
⑤感染症・食中毒予防まん延防止対策委員会
⑥グループホーム重度化対応委員会
⑦褥瘡発生防止委員会
⑧安全衛生委員会
⑨給食委員会
⑩広報委員会
⑪防災対策委員会
⑫研修・地域連携委員会
⑬リハビリ委員会
⑭ショートステイ委員会
⑮看護介護協働委員会

（２）退所者の状況　　男 5 人　　女 14 人　　計 19 人

１．退所者区分

	死　亡	長期入院	他施設へ	家庭復帰	計
男	4	1	0	0	5
女	13	1	0	0	14
計	17	2	0	0	19

２．死亡退所状況

① 死亡退所者　17 名（病院：1 名、こぶし荘：16 名）
② 死亡退所者の平均年齢 87.8 歳（前年度 89.1 歳）

２．痰の吸引・経管栄養等の研修事業の実施

指導看護師の研修やケアワーカーの研修も継続し、入居者の安全安心な介護に取り組んだ。

３．給　　食

（１）嗜好とニーズに合った給食

生活の「楽しみ」と、「生きがい」を充実させるため、内容的にカロリーやビタミン、たんぱく質等の栄養に留意しながら選択メニューなどを実施し、心身の状態にあった献立と食事作りに努めた。食事形態の刻み食に対して、食べやすく飲み込みやすいムース食も取り入れて、より安全、安心に食べていただけるように努めた。

また、給食委員会での意見や管理栄養士によるフロアランド等により入居者の嗜好を献立に反映させ、喜ばれる食事の提供に努めた。

１．適時適温食事への配慮

朝８時　昼１２時　夕６時　の家庭的な食事時間に留意した。

温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、“食べやすさ”に努めた。

２．栄養ケアマネジメント

多職種協同による栄養ケアマネジメント体制で入居者全員を対象とし栄養状態の維持、改善を図った。スクリーニング、アセスメント、カンファレンスを行ったうえで栄養ケア計画を作成し、家族に説明し同意を得て実施した。また定期的にモニタリング、評価し、作成した計画について見直しを行った。計画の変更があった場合は、その都度同意を得た。

	単位	栄養摂取量基準値（平成27年度）	一日平均摂取量 普通食	一日平均摂取量 粥　食
熱　　量	kcal	1,591	1511	1296
蛋　白　質	g	52.6	56.2	50.9
脂　　質	g	42.6	36.9	36.3
カルシウム	mg	663	738	730
鉄	mg	6.3	10.7	10.1
レチノール当量	μg	688	474	483
ビタミンB1	mg	0.85	0.99	0.92
ビタミンB2	mg	0.95	1.02	0.99
ビタミンC	mg	100	84	84
塩　　分	g	7.3	10.3	10.3

＊日本人の食事摂取基準（2015年版）の数値を献立作成に用いながら栄養アセスメントで算出した個々人の必要量の充足に努めた（上記表はその平均）

３．給食費

（１）給食材料の改善　新鮮で、より良い素材の吟味、スケールメリットを生かした見積合わせの実施で価格の安定化を図る

（２）給食材料費の単価　　日額７２１円

（３）一人当たり１日平均　日額７２９円（年間平均金額）　合計９１，４６５食

（２）行事と行事食

行事と行事食の充実を心掛けた。

・毎月の誕生会～誕生者全員と、家族の方も参加、食事、慰問などで歓談された。

誕生会には、ジュースを提供し、楽しく和やかな食事風景が見られ大いに歓迎された。また、ボランティア友の会を中心に慰問もあり歌や踊りを楽しんだ。誕生日当日には一人一人のご希望を伺い提供して祝福した。

・節句、七夕、芋煮会、正月、ひな祭りなどの行事に季節感あふれる行事食を提供

・重度化により参加者は年々減少傾向にあるが、春の花見等外出も実施した。

☆ 行事と行事食、選択メニューの内容は資料（1）のとおり

（3）衛生管理について

衛生的な食事の提供と食中毒、Ｏ－１５７、ノロウイルスなどの事故を未然に予防するため、重点的に次のことを心掛けた。

1．手指の洗浄と消毒、うがいの励行、自動手洗い器の活用
2．検便検査及びノロウイルス検査の実施と感染症対策、管理の徹底
3．職員の体調管理の把握、身体衛生の徹底
4．食品の取り扱い、器具類の清潔保持、衛生管理の徹底
5．調理室、食品庫の清潔保持、衛生管理の徹底
6．食事（調理済み食品）の迅速な配膳、提供
7．厨房前室の食材洗浄用シンクを活用、調理用と区分して衛生確保を図った

（4）残食調査状況　（残飯及び残菜合計）

（経管栄養者除く）

平　均	朝	昼	夕	給食実施数
春 4～ 6月	0.9 kg	1.2 kg	1.3 kg	83人
夏 7～ 9月	1.1 kg	1.3 kg	1.7 kg	83人
秋 10～12月	0.9 kg	1.4 kg	1.4 kg	84人
冬 1～ 3月	1.0 kg	1.3 kg	1.4 kg	86人
前年通年平均	1.0 kg	1.3 kg	1.5 kg	84人

４．医療・看護

（1）医　　療

1．嘱託医の診療

◇内科嘱託医（大塚　聡先生）　週１回（火）

◇精神科嘱託医（佐藤忠宏先生）月１回

大塚先生による日常的な診療のほか、個人の状態に応じて必要な処置が行われ、さらに専門医への通院により診療が行われた。

認知症疾患に関して、佐藤先生による定期診療を受け、また佐藤先生指導のもと処遇についての職員の荘内研究など専門的に、積極的な取組みがなされた。

◇歯科協力医佐藤有弘先生の往診治療が多くの入居者、家族に歓迎されている。

2．感染症等対策、ＭＲＳＡ、Ｏ－１５７

・胸部エックス線検査（入居者）１回／年
・弱酸性次亜塩素酸水による日常的な衛生管理や清掃を実施
・インフルエンザ、肺炎球菌対策～希望者にワクチン接種（入居者、職員）
・レジオネラ菌対策～浴槽の清掃、消毒薬入浴剤の使用、水質検査などを実施
・ノロウイルス等対策～うがい、手洗いの徹底、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒（週１回及び随時）

・風邪など感染症予防のため、面会時うがい、マスク着用、手指の消毒を実施

（２）入院・退院

入　院　者	10 名	置賜南陽病院、置賜総合病院、佐藤病院、高畠病院
退　院　者	7 名	
入院中死亡	1 名	
継続入院者	1 名	
長期入院契約解除	2 名	

（３）健康調査

入居者の健康管理上重要な健康状態の把握～毎月健康調査

・日常的な健康チェック

・毎月定期的に血圧、体重測定を行って健康状態を確認

・年１回定期的に血液検査を実施した。また体調不良時など随時大塚先生の指示のもと、血液・尿等の検査を行い、健康管理に心掛けた。

・全入居者を対象に大塚医院の協力を得て胸部レントゲン撮影を行った。受検者５４人

（４）リハビリテーション

日常生活の向上を図り、自立的意欲の高揚を促し、できるだけ現状維持できるよう、その機能の回復訓練を行った。

・「佐藤病院」ＯＴの協力～目標と指導方針の策定、実施及び評価を受けた

・機能訓練指導員、リハビリ係が中心となって継続実施し、各々目標を設定

・リハビリ用具の有効利用　平行棒、マットプラットホーム、四点杖等
　～日常生活の自立につながる成果と評価の向上を目指した

・リハビリ委員会　機能訓練指導員（看護師）、ケアワーカーリハビリ係
　～適宜、検討会を開き、全体調整や個別リハビリの向上に努めた

・機能訓練指導員によるリハビリケアプランの実施

◇計画的訓練及び全入居者を対象にベッド上運動訓練、歩行訓練を実施した

《計画的目標訓練の内容》　・起き上がり訓練　・平行棒内歩行訓練　・立位訓練
・座位バランス訓練　・下肢筋力増強訓練　・ＲＯＭ（関節可動域）訓練
・ダンベル体操　・歩行訓練　・集団レクリエーション

３　地域福祉サービス

１．ショートステイ

《利用状況》　　南陽市　　平均利用率 81.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
利用人数	22	21	20	17	19	16	19	19	16	16	19	16	220 人
延日数	224	200	202	177	189	172	181	182	188	219	223	207	2,364 日
（当年度）220 人　2,364 日（月平均 197 日／1 日 6.5 人）平均介護度 3.1（要支援も含む） （昨年度）237 人　2,240 日（月平均 186 日／1 日 6.1 人）													

※ 南陽市委託事業：高齢者緊急ショート２名受け入れ。昨年度の豪雨災害による家屋建設のため長期ショート受け入れ１名。冬期間の継続利用ショート３名受け入れ。

４　家 族 交 流

・日常的な面会などの他、夏祭りや敬老会などには、ご家族と共に行事を楽しんでいただきながら、お年寄りの精神的、身体的活力を維持し、生活に明るさと生きる喜びを持っていただいた。
・誕生会への家族参加を呼びかけ、誕生者と共に食事しお祝いしていただいた。
・その他、日曜日や祝日、連休、父の日、母の日などの来訪も多く見られた。

（資料１）　　平成２７年度行事と行事食

月	日	行事内容	行事食
4月	1日	開荘記念日	赤飯、清汁、刺身盛合せ、じゃが芋といんげん煮、三五八漬け、プリン
	20日	お花見	ちらし寿司、豚汁風煮、小松菜のり和え、ゼリー
	30日	誕生会	ピースご飯、清汁、刺身盛り合わせ、茶碗蒸し、茎立のり和え、いちご
5月	1日	変わりご飯の日	わかめご飯
	29日	誕生会	ご飯、清汁、かつおのたたき、わらびの煮物、一夜漬け、メロン
6月	1日	変わりご飯の日	生姜ご飯
	25日	誕生会	梅しそご飯、くじら汁、天ぷら、もずくの青じそドレ和え、溶けないアイス
7月	1日	変わりご飯の日	グリンピースご飯
	23日	うなぎの日	ひつまぶし、胡瓜カニフレーク、べったら漬け、オレンジゼリー、牛乳
	30日	誕生会	生姜ご飯、清汁、豚の野菜巻き、揚げ茄子のみそかけ、三五八漬け、メロン
8月	1日	変わりご飯の日	ゆかりご飯
	7日	夏祭り	焼きそば、焼き鳥、かき氷、わたあめ（模擬店）
	27日	誕生会	ちらし寿司、清汁、牛肉しぐれ煮、菊とほうれん草のり和え、アイス風デザート
9月	1日	変わりご飯の日	栗ごはん
	20日	敬老会	赤飯、清汁、天ぷら、茶碗蒸し、白和え、大根味噌漬け、紅白まんじゅう
	24日	秋の彼岸 誕生会	おはぎ４種、牛乳、あけび肉みそ、白桃缶
10月	1日	変わりご飯の日	まいたけご飯
	8日	いも煮会	ゆかりご飯、いも煮、小松菜和え、牛乳、ゼリー
	29日	誕生会	まいたけご飯、清汁、刺身盛合せ、冬瓜くずあん、菊の浸し、柿
11月	1日	変わりご飯の日	わかめご飯
	26日	誕生会	かにご飯、清汁、刺身盛合せ、かぶ海老あん、おみ漬け、キャラメルプリン
12月	1日	変わりご飯の日	しょうがご飯
	17日	誕生会	鮭いくら親子丼、みそ汁、茶碗蒸し、かぶゆかり漬け、ゼリー
	22日	冬至	冬至南瓜
	25日	クリスマス	ご飯、牛乳、ロール白菜、ブロッコリーサラダ、たくあん漬け、みかん
	31日	大晦日	ご飯、ねぎとろ、里芋煮、かぶ漬け、白桃缶
1月	1～3日	おせち料理	かにご飯、ひょう干し煮、伊達巻卵、いか数の子、棒だら煮、冷汁、だいだいムース、炒り鶏、黒豆、昆布巻き、紅白なます、きんとん、ブリの幽庵焼き、とろろ
	7日	七草粥	七草粥
	29日	誕生会	さつまいもご飯、とうふ汁、銀たら香梅煮、茶碗蒸し、たたききゅうり、キウイフルーツ
2月	1日	変わりご飯	豆ご飯
	3日	節分の日	ちらし寿司、清汁、ごぼうおかか煮、うぐいす豆、ブラマンジェ
	14日	バレンタインデー	チョコデザート・ココアムース
	25日	誕生会	ゆかりご飯、清汁、刺身盛合せ、白菜五目煮、キャラメルプリン
3月	1日	変わりご飯の日	梅しそごはん
	3日	ひな祭り	ちらし寿司、牛乳、切干大根煮、菜の花辛子和え、プリン
	17日	春の彼岸	ぼたもち、おろし酢和え、ゼリー、牛乳
	31日	誕生会	かにご飯、清汁、てんぷら、茶碗蒸し、たたききゅうり、いちご

平成２７年度選択メニュー

月	日	メ　ニ　ュ　ー	
4 月	9 日	てんぷら・ごはん	てんぷら・うどん
	16 日	ごはん・かつおたたき	味噌ラーメン
	23 日	ごはん・チンジャオ風	焼きそば
5 月	14 日	筍ごはん	笹まき
	21 日	ごはん・牛皿	スパゲッティナポリタン
6 月	11 日	ごはん・鮭みそマヨ焼き	山菜そば
	18 日	ごはん・千草焼	冷したぬきうどん
7 月	9 日	ごはん・かじきまぐろ葱みそ焼き	七夕そうめん
	16 日	ごはん・だし	あんパン・南瓜スープ
8 月	6 日	枝豆とみょうがごはん・みそ汁	冷麦
	20 日	ごはん・ブラウンシチュー	冷し中華
9 月	17 日	しめじごはん	もりそば
10 月	15 日	ごはん・かつおたたき	きのこそば
	22 日	ごはん・ロールキャベツ	スパゲッティミートソース
11 月	5 日	ごはん・親子煮	味噌ラーメン
	12 日	ごはん・芋煮	煮込みうどん
1 月	21 日	ごはん・肉豆腐	にしんそば
2 月	18 日	ごはん・親子煮	うどん
3 月	24 日	ごはん・ブラウンシチュー	ラーメン

（資料２）

こ ぶ し 荘 日 課 表

時間	日　課	午　前　の　部	午　後　の　部	夜　間・早　朝
5：00				・おむつ交換 検温 室温調べ
6：00	起　床			・モーニングケア ホットタオル配布 放送(朝の挨拶、朝食メニュー等)
7：00	離　床	Ｂ勤 夜勤者から申し送り おむつ交換 車いす使用者介助		・健康状態確認 洗顔　歯磨き
8：00	朝　食	配膳　食事 下膳		
8：50	放　送	清掃(居室・ホール等)		
9：00	朝の体操 朝　礼			Ｄ勤者へ申し送り
9：30				
		入　浴　・　行　事		
10：00	離　床 入　浴	・車いす使用者介助　・水分補給 ・クラブ活動　リハビリ		
11：00		・おむつ交換(随時)		
11：30		・昼食準備(食席誘導　おしぼり　エプロン配布) 車いす使用者介助		
12：00	昼　食	・配膳　食事　下膳 エプロン、おしぼり準備		
13：00		・コール対応 入浴準備	・トイレ清掃 ・おむつ交換	
14：00	入　浴	**入**	**浴**	
			・水分補給	
16：00			・おむつ交換 ・居室サービス(個別処遇)	
17：30	申し送り		・夕方の申し送り	
18：00	夕　食		・夕食準備 エプロン、おしぼり配布 誘導　車いす使用者介助 ・配膳　食事　下膳	
19：00			・おむつ交換 ・入浴準備(翌日分)	
20：00				・エプロン、おしぼり準備 モーニングケア用タオル準備 朝食用エプロン、おしぼり準備 検温　義歯洗浄　与薬 ・おむつ交換
21：00	消　灯			以下は下記のとおり

19：00～	・おむつ交換（19：00、21：30、23：00、2：30、5：00）（随時対応） ・検温　定時薬与薬　水分補給　洗濯 ・巡視（0：00、1：00、3：00、4：00） ・室温調べ（21：00、0：00、5：00）

（資料３）

こ ぶ し 荘 週 課 表

	午　　前	午　　後
日	冷蔵庫清掃（月２回） 汚物処理室清掃 理容取りまとめ	おやつ（お菓子） 車いす点検(第 1)　ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ清掃(第 2) 浴室清掃(第 3)　書道クラブ(第 4)
月	居室清掃 居室ケア 特浴・リネン交換（東棟）	特　浴（東棟）
火	特　浴（西棟） 特浴者リネン交換（西棟）	特　浴（西棟）
水	独　浴・中 間 浴 リネン交換（西棟） 理　容（第２・４週）	おやつ（飲み物） 中 間 浴
木	居室清掃 居室ケア 行　事 特浴・リネン交換（東棟）	特　浴（東棟）
金	特　浴（西棟） 特浴者リネン交換（西棟）	特　浴（西棟）
土	独　浴・中 間 浴 リネン交換（東棟）	おやつ（飲み物） 中 間 浴

ラジオ体操：毎日　８：５５～
行　　事：誕生会、茶話会、レクの日などの行事や慰問は月曜日・木曜日
理　　容：月２回　第２・第４水曜日
珈琲やさん：季節ごと随時
ＯＴ指導日：月１回　第３木曜日

こぶし荘デイサービスセンター

１．老人デイサービスの目的

在宅老人デイサービスセンター（ＤＳＣ）または居宅において、在宅の虚弱老人や寝たきり老人に対し、通所または訪問して各種のサービスを提供することにより、生活の助長、孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、介護している家族の身体的、精神的負担の軽減を図ることを目的とし、所期の目的は達成できた。

２．利用者の状況

介護保険制度下において､介護認定を受けた要介護状態(要支援１～要介護５)にある方がご利用された。

利用者サービスの向上を図り土曜日、一部祭日の営業を実施するとともに新規利用者獲得に力を入れた。

※利用者の状況は資料１のとおり

３．組織および職員

《 職　　員 》

職　　名	現　員	備　考	職　　名	現　員	備　考
管　理　者	1	兼務	看　護　師	1	兼務
事　務　員	1	兼務	機能訓練指導員	1	兼務
栄　養　士	1	兼務			
業　務　員	1	兼務	兼　務　計	１０	
生活相談員	１（２）	常勤(兼務)	専　任　計	5	
ケアワーカー	６（２）	常勤(兼務)	合　　計	１５	

４．デイサービス利用者の日課及び行事

デイサービスセンター利用者の日課は資料（2）及び行事は（3）のとおり実施した。

５．利用者介護と福祉向上

（１）課外行事の実施
（２）感染症予防対策として各種薬剤及び器具を整備購入
（３）各種医療機器の更新、整備
（４)機能訓練･レクリエーション用具の整備(５０インチテレビ及びスタンド)
（５）送迎用自動車の整備

６．職員の資質の向上

職員の資質の向上は、積極的参加を図り、処遇技術の向上に努め、相互研修の自覚を高めた。また、防災安全に関しても重点をおき訓練を実施した。

◇ こぶし荘デイサービスセンターの研修参加状況は次のとおり

主　な　研　修　会　等	参加	人数
◇ Ｈ２７年度 県デイサービスセンター部会職員研修会	1	1
◇ 県老施協デイサービスセンター部会生活相談員研究会	2	4
◇ 介護保険施設集団指導	1	1
◇ 置賜地区デイサービスセンター生活相談員研究会	1	1
◇ 介護サービス等送迎中の事故防止対策会議	1	2
※ デイサービス委員会（全体運営、利用者介護、研修等全員参加で資質向上を図る）		

７．非常災害対策

こぶし荘防火管理並びに消防防災計画に基づいて防災関係機関との連携を図りながら非常災害対策及び訓練を行った。

◇ 防火管理者　　近野生活相談員（DSC）
◇ 消防防災設備定期点検　　９月１５日、３月１６日
◇ 消防防災設備立入検査　　置賜広域行政事務組合消防本部　なし
◇ 消防防災設備点検届出　　置賜広域行政事務組合消防本部　４月、９月分
◇ 夜間非常通報訓練　　１２月１８日一斉メール、電話で実施
◇ 非常災害対策訓練　　総合防災訓練２回
（第１回）こぶし荘合同　　5 月 30 日　通報、避難誘導、初期消火訓練
重点項目：消火器訓練、救急救命訓練、地震対応
（第２回）こぶし荘　　10 月 28 日
重点項目：図上訓練
◇ 協力依頼 ～ 南陽消防署、地区消防団、北山地区住民、防災設備会社

８．施設管理、環境整備、その他

（１）緊急避難場所用芝生及び植栽管理～除草、施肥
（２）プレハブ倉庫の管理～介護用品、季節用品などの整備、保管
（３）リフトバスの補修整備（車検整備１台）
（４）床下ピット内排水作業（随時）、床ワックス施工（２回）
（５）センター外周側溝清掃（随時）
（６）給湯用ボイラー、暖房用ボイラーの保守管理、修理
（７）浄化槽の保守管理（排水ポンプ更新２台）
（８）ロータリー整備、植木、花壇の管理
（９）除雪機の整備及び保守管理
(10) 特浴槽の保守整備
(11) 入浴用シャワーチェアーの更新（４脚）

（資料１）

１．利用者実人員の状況

※１～５平成26年度実人員中

H27 年度 利用実人員 61 名

男性 14 名
女性 47 名

1. 地区別

吉野	金山	宮内	中川	漆山	赤湯	梨郷	沖郷	施設	その他
10	1	3	31	2	8	0	1	5	

2. 介護度別

要支援1	要支援2	1	2	3	4	5	対象外	非該当	未認定	その他
4	8	15	14	14	2	4	0	0	0	0

3. 入浴別

特別浴	介助浴
15	46

4. 利用状態別

利用中	休止中	入院中	入所	死亡
40	7	6	3	5

5. 保険種別

予防サービス	介護保険
12	49

6. 月別利用状況

年間利用実績状況

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護度		要支1	21	16	22	23	20	16	17	13	10	12	15	14	199
		要支2	67	68	82	83	62	59	63	53	55	43	41	48	724
		1	81	67	82	87	79	93	105	103	68	57	61	70	953
		2	82	85	99	87	88	91	101	88	92	83	93	84	1073
		3	47	48	59	75	56	61	63	57	52	73	78	76	745
		4	30	26	32	28	27	18	14	9	8	8	9	9	218
		5	13	12	13	12	3	0	0	0	5	3	1	3	65
介護	入浴	介助	171	160	206	199	162	179	194	172	167	161	174	185	2130
		特別	68	65	62	78	76	76	78	71	52	58	61	0	745
	体制強化Ⅰ1		253	238	285	289	253	263	283	257	225	224	242	51	2863
	体制強化Ⅱ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練Ⅰ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練Ⅱ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養マネ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予防	入浴	介助	79	68	91	91	69	63	66	52	52	41	44	45	761
		特別	10	15	18	21	12	10	13	12	12	10	12	12	157
	体制強化Ⅰ1		21	16	22	23	20	16	17	13	10	12	15	14	199
	Ⅰ2		67	68	82	83	62	59	63	53	55	43	41	48	724
	生活機能向上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	運動機能向上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業所評価		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本（介護）			253	238	285	289	253	263	283	257	225	224	242	242	3054
基本（予防）			88	84	104	106	82	75	80	66	65	55	56	62	923
入浴合計			328	308	377	389	319	338	363	323	290	279	298	304	3916
食事			328	310	372	379	333	337	363	320	298	279	298	304	3921
利用合計			341	322	389	395	335	338	363	323	290	279	298	304	3977

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別合計		341	322	389	395	335	338	363	323	290	279	298	304	-
累計		341	663	1052	1447	1782	2120	2483	2806	3096	3375	3673	3977	3977
開所日数		25	23	26	27	24	24	26	24	20	20	21	23	283
人/日	介護	10.1	10.3	11.0	10.7	10.5	11.0	10.9	10.7	11.3	11.2	11.5	10.5	10.8
	予防	3.5	3.7	4.0	3.9	3.4	3.1	3.1	2.8	3.3	2.8	2.7	2.7	3.3
	計	13.6	14.0	15.0	14.6	14.0	14.1	14.0	13.5	14.5	14.0	14.2	13.2	14.1
実人員	介護	34	34	37	37	39	38	40	38	36	35	35	35	37
	予防	14	14	16	15	15	13	13	12	11	9	10	9	13
	計	48	48	53	52	54	51	53	50	47	44	45	44	49
利用率(小規模：400人/月)		85.3%	80.5%	97.3%	98.8%	83.8%	84.5%	90.8%	80.8%	72.5%	70%	74.5%	76.0%	82.9%

※5~7h×0.75=400　7~9h×1.0=300

年間利用者総数	3977	名
年間開所日数	283	日

１日平均利用者数　14.1 名

事業所区分による利用率　82.9 %

（資料２）

こぶし荘デイサービスセンター日課表

時　　間	利　用　者　の　活　動	業　　務　　内　　容
８：３０		出勤・ミーティング 受け入れ準備
８：５０		送迎バス出発
９：５０	送迎バス到着	受け入れ
１０：３０	健康チェック 茶話会 入浴(介助浴・特別浴) 個別リハ、レクリエーション活動	連絡帳確認及び記入 健康チェック 入浴介助
１２：００	入浴終了 昼　食	浴室清掃 昼食準備・配膳 食事介助（昼当番）
１３：００	休　養	日誌類記入
１４：００	健康チェック	健康チェック・レク準備
１４：２０	個別リハ、レクリエーション活動	レク・リハビリ活動指導
１５：００	手作りおやつ 茶和会 帰宅準備・懇談	翌日利用者への電話連絡 次回予定説明・連絡帳配布 相談等・記録（データ入力）
１６：００	送迎出発	送迎介助
１７：１０		送迎バス到着
１７：２０		清　掃
１７：３０		ミーティング、記録（データ入力） 退　勤

Ｈ２８年３月現在

（資料３）行事計画

月	こぶし荘デイサービスセンター	
4	・桜　花見 ・季節のおやつ作り	
5	・ 体力測定 ・ゆったりティータイム ・災害避難訓練	
6	・季節のおやつ作り	
7	・ゆったりティータイム ・体力測定	
8	・夏祭り	
9	・体力測定 ・野外芋煮会	
10	・ビデオ体操 ・災害避難訓練	
11	・俳句・短歌 ・季節のおやつ作り	
12	・クリスマス会 ・ゆったりティータイム	
1	・書き初め ・季節のおやつ作り ・体力測定	
2	・節分豆まき ・ゆったりティータイム	
3	・雛祭り会 ・お彼岸	

こぶし荘在宅介護支援センター

１　目　　的

常に利用者と家族から信頼されるセンターを目指し、在宅の要支援高齢者若しくは要援護となる恐れのある高齢者または家族に対し、在宅介護に関する総合的な相談に応じ地域の要介護高齢者及び家族の福祉向上を目標とし、概ね達成できた。

２　職　　員

管　　理　　者	１人（社会福祉士・主任介護支援専門員）
介護支援専門員	１人（介護福祉士・介護支援専門員）

＊ 職員態勢は、２．０人で業務を行ないました。

３　在宅介護支援事業

（１）業務別件数

業　　務	件　数
１．福祉用具展示	有り
２．相談延べ人数	4.245 人
３．訪問延べ人数	1.259 人
４．連絡調整	785 件
５．手続き代行	35 件
６．通院送迎介助	10 件
７．介護用品斡旋注文	10 件

＊　相談延べ人数は、平成 26 年度 3.570 人に対し、平成 27 年度は 4.245 人と増加している。相談内容別件数ではがんで退院された方からの相談や入院しているが入院日数の制限で退院の相談が多くあった。また、一人暮らしや医療行為のある方からの相談もあった。

＊　介護用品斡旋注文に関して、福祉用具（入浴用品、ポータブルトイレ、杖など）の相談はあった。また手すり設置の住宅改修の相談もあった。手すりは住宅改修が無理な住宅ではポジションバーやタッチアップの福祉用具で対応する場合もあった。

＊　手続き代行に関しては、介護保険認定申請、紙おむつ支給申請、福祉用具の購入申請、住宅改修申請、身体障害者手帳申請、高額介護費及び高額医療費支給申請等があった。27 年度から介護保険改正により介護保険負担割合が導入され負担割合が１割か２割になる方が出ている。また介護保険負担限度額（部屋代や食事代の割合）の申請に際し、本人の通帳の写しが必要になったため、なるべく家族に申請してい

ただき代行は少なくなった。平成 26 年度の 60 件に対し、27 年度は 35 件であった。

＊　通院送迎介助に関しては、介護保険内と保険外において介護タクシー等を利用した。老老介護で通院先の医師等との話の内容を一緒に聞いてほしいとの希望があり同行する場合や配偶者が外国籍で言葉が理解出来なかったり、認知症で主治医の話が理解できなかったり、日ごろの生活の様子を主治医に報告するための同行は継続必要である。

（２）相談内容別件数（延べ）

相 談 内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1. 介護相談	103	93	81	108	142	80	92	100	80	95	86	90	1,150
2. 健康相談	17	23	21	13	14	16	33	15	19	17	14	16	218
3. 医療相談	71	68	62	67	82	40	58	45	60	35	46	64	698
4. ホームヘルパー	38	37	37	42	38	14	29	21	22	25	28	39	370
5. デイサービス	40	27	58	43	44	23	40	41	50	31	43	49	489
6. ショートステイ	32	28	32	55	47	34	40	43	39	36	63	56	505
7. リハビリ	4	3	1	0	1	0	0	1	7	13	4	2	36
8. デイケア	1	3	0	4	6	7	10	1	0	1	6	6	45
9. 福祉介護用品	16	19	24	14	16	6	26	11	8	9	16	34	199
10. 住宅改修	2	0	2	6	5	0	5	7	1	1	4	5	38
11. 施設入所関係	7	5	3	4	10	28	7	4	7	5	13	9	102
12. 訪問入浴	11	6	2	2	5	10	4	2	9	3	0	16	70
13. 保健福祉関係	2	2	11	15	55	2	4	3	4	0	9	8	115
14. 訪問看護	33	16	13	15	19	9	17	10	16	6	13	14	181
15. その他	0	2	3	3	3	3	5	4	1	3	1	1	29
16.													
合　　計	367	322	340	381	477	262	363	298	313	274	336	399	4,245

＊　総合相談でもある「介護相談」が最も多い。

＊　今年度も、入退院や訪問看護・訪問入浴等の利用に伴う本人家族や医療機関との相談が多い。

＊　在宅サービスの基本となる「ホームヘルパー」「デイサービス」「ショートステイ」は毎月コンスタントに相談がある。H27 年 8 月よりドミール南陽が 30 床と増床したことで希望する日程が利用しやすくなった。また併設するこぶし荘との連携を図り、緊急時ショートステイ利用や冬期間の利用、デイサービスの利用も随時対応した。一人暮らしや冬期間の自宅生活困難に関しては小規模多機能事業所の希望もあり、移動された方もあった。

＊　高齢介護になり、介護者である配偶者や子供、兄弟がそれずれに病気を抱え介護しているケースが多くなっている。その為長期のショートを利用している。

＊　高齢者の一人暮らしや老老世帯の増加、認知症の進行、男性介護者の増加で施設

入所関係の相談があり、平成 26 年度は 120 件に対し、27 年度は 102 件であった。

＊　「その他」の内容としては、生活全般にわたる相談（経済的問題、家族関係、住宅の環境等）が多い。

（３）相談経路(延べ)

相 談 経 路	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1.本　人	110	98	117	100	126	94	127	91	91	109	123	138	1,324
2.介護者	157	113	135	148	143	114	123	125	142	129	159	158	1,646
3.関係機関その他	120	94	117	120	106	87	107	82	89	72	143	138	1,275
合　　計	387	305	369	368	375	295	357	298	322	310	425	434	4,245

＊　１つの相談内容に対し本人や介護者・関係機関等に数回足を運んだり、数回電話対応しているが一回にカウントしているので実績はもっと多くなる。

＊　関係機関からは、ケースに関する情報も含め随時相談があり、時間外にも連携を取れる関係であった。特に、訪問介護、訪問看護、通所介護、短期入所サービス各事業所における相談が多かった。また在宅主治医、民生委員、福祉課（地域包括支援センター・支援係)、病院医療連携室等と相談、連携を図った。退院に関しては、入院中や退院に向けての会議が病院内で設定される機会が多くなり随時参加した。

４　居宅介護支援事業

（１）居宅介護支援事業件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
認定調査	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
給付管理	52	50	53	49	55	52	54	54	50	51	52	57	629
予防給付	18	19	19	20	19	19	18	18	19	17	17	16	219

（２）移動件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
1.新規相談	0	2	0	4	4	3	4	2	0	2	5	6	32
2.保険外相談	1	3	2	2	2	1	3	2	2	1	3	1	23
3.入所	0	1	1	0	1	3	0	1	1	0	0	1	9
4.入院	1	2	3	4	3	3	4	4	4	2	4	10	44
5.死亡	1	2	2	1	0	0	0	0	1	2	2	2	13
ケアマネ依頼	0	2	0	4	4	3	4	2	0	2	5	6	32

＊　認定調査に関しては、南陽市より当センターの職員 2 名が介護認定調査員として委託を受けたが 27 年度は 4 件であった。認定期間が 2 年の人も多く、ほぼ市役所で

調査している。

＊　給付管理件数に関しては、平成 26 年度は 662 件、予防給付 240 件、平成 27 年度は 629 件、予防給付 219 件であった。

＊　新規ケアマネ依頼者は 26 年度 22 件、27 年度は 30 件であった。施設入所・死亡等の移動者は今年度約 22 件であった。

＊　更新申請で予防から介護に、介護から予防に移行になったケースもあった。

＊　申請と同時に担当し、できる範囲で医療や自費での対応をしたが介護保険の実績に至る前に入院や亡くなるケースもあった。

＊　老人保健施設から退所し自宅生活したが、再度入所に至るケースもあった。

＊　入所希望したが、すぐ入所できず短期間担当し入所に至るケースもあった。

こぶし荘認知症高齢者グループホーム こぶしの家

１．グループホームの目的

地域密着型施設として共同生活住居において、利用者が共同で自立した生活を送り、精神的安定及び認知症の進行緩和、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的、精神的な負担の軽減を図ることを目的とし、概ね達成できた。

２．利用できる方の心身の状態

中程度の認知症があり、在宅での生活が困難な方。年齢は概ね６５歳以上で、共同生活が可能な方で要支援２以上の方を対象に利用者として受入れを行った。

３．職　　員

管理者・計画作成担当者	１名	
ケアワーカー	６名	合計７名

４．利用者の状況　　※地域密着型で南陽市民が対象

利 用 者 の 移 動	入所	退所
３月３１日現在　９名	３名	３名

５．運営推進会議

地域密着型サービスへの市民感覚の受入れと意見を尊重して、より良い介護を行うため、２カ月に１回、計６回開催した。

（１）委　員

利用者１名、家族代表、外部委員（民生委員、市福祉課職員）、施設長、管理者、介護職員（事務局）

（２）開　催　　（　）内参加者数

５/１５（７名）、７/１６（６名）、９/１６（７名）、１１/１１（７名）、１/２８（７名）、３/１６（７名）　　～計６回

（３）主な議題について

①　利用者状況について

②　介護サービスに対する要望や意見

③　感染症防止対策について

④　防火・防災について
⑤　職員の資質向上について
⑥　地域交流、家族交流について
⑦　事業計画について
⑧　建物・環境整備・修繕等について

６．グループホーム利用者の日課について

ご利用者の日課については、別表１のとおり。

７．日常生活の援助

（１）入　浴

概ね午前に入浴した。また、プライバシーにも配慮した入浴を行い、健康管理、衛生管理の充実を図った。

（２）排　泄

排泄面での自立支援に努め、リハビリパンツやパット使用者には、人格を尊重し、プライバシーを守りながら介助を行った。

（３）食　事

①　献立や栄養、衛生管理に留意し、利用者は出来る範囲で職員とともに後片付けにも取り組んだ。毎日の食事は家庭的なものを考慮し、また季節の行事食や誕生会も実施して楽しく食べていただいた。
②　検食は、毎食職員１名が行い日誌に記録した。
③　栄養面、健康面にも配慮して、カロリー計算（月１回）を荘管理栄養士に依頼した。

（４）日常の生活

心身の回復と生活意欲の向上を図るため、生活リハビリを行った。また、それぞれが生きがいを見出せるよう買い物、レクリエーション、行事等の援助を行った。

（５）精神的ケア

心身の状況等、常に利用者の状態把握を行い、利用者の支えとなるよう努めた。

（６）健康管理

荘看護師による医療連携により、バイタルチェックや相談、ケアワーカーによる食事や水分摂取量の把握など利用者の心身の健康管理に努めた。

（７）ケア計画（ケアプラン）と質の高い実践

計画書作成とモニタリング、カンファレンスを行いながらご本人の思いに寄り添ったケアの実践に取り組んだ。家族にはケア内容を説明し、根拠に

同意を頂きながら信頼関係を大切に実践を積み重ねた。

８．地域交流・家族交流　（別表２参照）

（１）地域交流

中川児童館や小学校との交流、公民館行事など地域の行事にも参加した。

心身の健康増進を進めながら交流を図った。書道や工作などの成果作品を地域の文化祭に出展。地域の方々に見て頂く機会は、大変励みになった。

（２）家族交流

夏祭り、敬老会、外出・外泊、面会等を通じて家族交流を進めた。また、「こぶしの家だより」を発行して生活の様子や月の予定を案内した。また担当職員から近況についての詳細報告も行い、ご家族との連携を図った。

（３）敬 老 会

９月２０日（日）１０：３０～１３：００

参加者：入居者９名、家族５名、施設長、職員５名/７名（夜勤者、夜勤明け者以外の全職員体制）

９．グループホームの内外の美化と安全確保

潤いを持たせるため、植物や利用者の作品等を置いて環境美化に努め、施設内外の整備と身の回りの整理整頓を行った。また、冬期間については屋外避難路や避難場所確保のための管理を行った。また、各種機器の定期保守管理を行った。

10．防災訓練

日常の防火防災に努めるとともに、災害時には特別養護老人ホームこぶし荘職員と一致協力して災害に対応するよう訓練を行った。第１回訓練では、グループホームを火元に想定した訓練も出来た。

５月３０日　第１回総合防災訓練
９月１８日　地域防災訓練参加
１０月２８日　第２回総合防災訓練

11．職員の資質向上

認知症ケア研修会等に参加し、職員の資質、処遇技術の向上につながった。下記以外にも職場内研修会への参加や、グループホーム職員の勉強会を開催した。

【５月２７日～７月８日】
山形県認知症介護実践者研修/県健康福祉部健康長寿推進課主催
【７月２８日～７月２９日】

山形県認知症対応型サービス事業管理者研修/県健康福祉部健康長寿推進課主催
【１０月１５日】
南陽市民公開講座（認知症予防）/市・佐藤病院認知症疾患医療センター
【２月１７日】
山形県キャラバン・メイト養成研修会/県健康福祉部健康長寿推進課主催

12. 建物・設備管理

・衣類乾燥機買い替え（１台）　６月２５日
・車椅子購入（１台）　７月１７日
・居間畳替え　７月２７日
・和室居室フローリング化　８月１９日、１０月１～２日
・洗濯機上ふた交換修理（１台）９月　３日
・消火器交換（３本）　１０月　１日
・便座上ふた交換修理（１台）１２月　２日
・浴室脱衣場換気扇交換工事　２月１５日

13. 家族の負担軽減（通院お手伝い）

家族の負担軽減のため日常的な通院や処方薬の受け取り等サービスの向上に努めた。

隔週水曜日、佐藤病院(心療内科)、トータルヘルスクリニック(内科)を受診。毎回、平均２～３名の本人受診と全員分の代診を行った。

14. 感染症対策　～検査～

食事作りをする職員として自主的に細菌検査､冬期ノロウイルス検査を実施した。

15. 委員会活動

法人全体で取り組む各委員会活動に積極的に参加出来た。グループホームの役割やを把握し、協力・連携を深めた。

16. 情報公表・実地指導

管轄連携機関等から基準に則った評価を受ける機会や、制度下での市民への情報開示を行う機会には真摯に対応出来た。今後も開かれた施設作りに取り組みたい。

（別表１）

入 居 者 の 生 活

６：００	起床、洗面、着衣交換
７：００	朝食準備
８：００	朝食、後片付け
９：００	清掃、洗濯物畳み（前日の入浴時の物)、洗濯（起床～朝食時の物）
１０：００	健康管理チェック、入浴、レクリエーション　等
１０：３０	お茶
１１：００	昼食準備、
１２：００	昼食、後片付け、洗濯物畳み（起床～朝食時の物)、洗濯（午前中の物）
１３：３０	休　憩
１４：００	レクリエーション、お茶、健康管理チェック 等
１６：００	夕食準備、洗濯物畳み（午前中～昼食時の物）
１８：００	夕食、後片付け、ゴミ収集、洗濯（午後～夕食時の物）
１９：００	だんらん
１９：３０	服薬、就寝準備
２０：００	就　寝

（別表２）

地域交流・家族交流

月　　日	交　　流　　内　　容
６月　１日	バスハイク（諏訪神社 芍薬祭り）
６月　８日	バスハイク（　　〃　　）
７月　３日	笹巻作り　ご家族、地域の方との交流
７月１４日	お茶会　　特養こぶし荘との合同お茶会
８月　６日	こぶし荘夏祭り
８月　８日	佐藤病院夏祭り
８月１２日	いわぶの里夏祭り
９月　５日	中川小学校運動会
９月２０日	グループホーム敬老会
１０月　８日	ドライブ外出　赤湯：「白いくも」にてお茶会
１０月１６日	バスハイク（南陽菊祭り）
１１月　３日	中川地区文化祭（中川小学校）